

知事新春記者会見

日 時 令和8年1月5日(月) 13:00~13:13

場 所 別館2階 記者会見室

(知事)

皆様、あけましておめでとうございます。

本年も、どうぞよろしくお願ひを申し上げます。

新年最初の会見にあたりまして、私から 2 点の発表と新年の抱負を申し上げます。まず発表の1つ目は、新たな県政のロゴマークでございます。昨年、本県の未来を担う高校生や学生の皆さんを対象に、県政ロゴマークを募集し、105 点の応募をいただきました。

審査の結果、常葉大学 2 年生、鈴木那琉さんの作品を、新たな県政ロゴマークに決定をいたしました。

このロゴマークは富士山をモチーフに、本県の目指す姿「幸福度日本一の静岡県」と県民一人ひとりの幸福実感を重視するウェルビーイングの言葉をわかりやすく取り入れたデザインとなっております。今後、県の印刷物など、様々に活用してまいります。

二つ目は、静岡県誕生 150 周年についてでございます。

1876 年、明治 9 年 8 月 21 日に、当時の静岡県と浜松県が合併して、現在の姿の静岡県が成立して以来、今年で 150 周年という節目を迎えます。

これまで本県の発展にご尽力された皆様に感謝を申し上げますとともに、本県の魅力を改めて実感していただけるよう、今後、市町、民間等と連携した本県の情報発信などを予定をしております。

次に新年の抱負でございますが、昨年は、米国第一主義を掲げるトランプ大統領が返り咲き、我が国では高市早苗さんが初の女性総理大臣に就任するなど政治、経済の両面で激動の年となりました。

本県におきましても、米国追加関税や円安、物価高などに加え、台風 15 号などの自然災害もあり、県のみならず、企業、家計ともに対応に追われた 1 年ではなかつたかと思います。

私は、社会全体の不確実性が高まっている今こそ、「県民が安心して幸せを実感できること」の重要性を見つめ直すべきだと考えております。そうした中、今年はいよいよ、ウェルビーイングの視点を取り入れた次期総合計画とともに、新しい県政を加速させる年となります。サービスの受け手である県民の皆様の目線に立ち、幸

福実感という主観的な要素を本格的に政策に反映することで、「幸福度日本一の静岡県」の実現を目指してまいります。

また、今年は 60 年に一度の丙午の年にあたります。丙午については様々な言い伝えがありますが、元々丙も午も火を意味する言葉で、これが重なる丙午は、非常に強いエネルギーを持った年とも言われております。

私も、丙午の強いエネルギーを持って、昨年以上のスピード感で県政を進めて参りたいと思います。私からは以上でございます。

(幹事社1)

ありがとうございます。幹事社の静岡新聞です。ただいまの知事の発表、抱負について質問のある社はお願ひします。

幹事社から 1 問いいですか。

新たな県政のロゴマークができましたけれども、知事から見た、このロゴマークの印象等あつたら教えてください。

(知事)

はい。非常にですね、今の県政の方針とかポイントをですね、うまく押さえていただいてるし、それに、シンボルとなる富士山をうまくあしらったですね、すごく良い出来ではないかなというふうに感じております。

(幹事社1)

これを通じて、県民にどういうことを改めて訴えたいかっていうのを教えてください。

(知事)

やっぱりですね、幸福度日本一の静岡県、県民の皆さんのが幸福度を高めていきますよということですね、発信をしていきたいと思います。

(幹事社1)

わかりました、ありがとうございます。

その他、どうでしょうか。

発表項目以外で質問のある社があつたらお願ひします。

(記者)

NHKです。本年もよろしくお願ひします。

すいません、今ちょっと発表項目の方に戻るんですけども、静岡県誕生 150 周年

に関してお伺いしたいんですけども、これから情報発信をしてまいりますというふうなご発言だったんですけど、具体的にどういったことを取り組んでいかれるかということとかですね、あと何か記念の式典だったり、イベントなどのご予定、ご検討はあるかどうかお聞かせください。

(知事)

特にですね、こちらで大規模な式典等は考えておりません。市や町、あるいは企業等ですね、150年に関した様々な何か発信とかですね、取り組みをしていただければいいかなというふうに思ってますし、静岡県の場合はですね、静岡県と浜松県が合併する前に、足柄県という東部の県がですね、まず一緒になってると。東中西それぞれ三つの県ですね、明治9年に一つになったと言ってもいいと思います。その後、全国見るとですね、分離運動がかなり起こってまして、明治21年、確か香川県が分離をしたのが最後で、47府県になったと思いますが。静岡県の場合は、そういう意味では東中西の三つの県が、明治9年に合併したというですね、歴史的な、そういう出来事があって、そういう性質を持った県になったということでありますので、今後はやっぱり150年を機にですね、東中西それぞれの持つ特性とか、よさというものをしっかりと活かして、またそういうものをですね、国内外にも発信をしていきたいというふうに思っております。

(幹事社1)

その他どうでしょうか。

(記者)

テレビ静岡です。本年もよろしくお願ひ致します。先ほど円安物価高というお話もございましたけども、今年の県内経済について、どのような見通しを持っていらっしゃいますでしょうか。

(知事)

そうですね、全体としては景気はそんな悪くないということですけども、やっぱりこの円安とかですね、物価高の影響ってのは徐々に出てるんじゃないかなと。特にやっぱり家計に対するですね、影響は大きいなという感じがいたします。

企業も、大きな企業はですね、そういうものを吸収できるかもしれません、やっぱり価格転嫁含めて、やっぱり中小零細にですね、どういう影響が出てくるかということも見ていかなければなりませんし、先ほど朝の挨拶の中で申し上げましたとおり、これ当分の間、円安インフレというのはですね、この傾向は続していくと思いますし、日銀が金利を上げたようにですね、これから金利が上昇していく時代に入

ってまいりますので、そうした影響がですね、どういうふうに企業や家計に影響を与えていくかということについては、しっかり注視をしていきたいと思っております。

(幹事社1)

よろしいですか。

その他どうでしょうか。

(幹事社2)

すいません、幹事社の日経新聞と申します。本年もよろしくお願ひいたします。まもなくというか、2月に向けて26年度の当初予算編成が、年明けすぐから加速すると思うんですけれども、まずこの予算編成に向けて年明け、手をつけたいところ、手をつけるべきだと思うところがあればお伺いしたいなというのが一点と、国の予算も固まったという中で県内、県の予算への交付税等の影響であったりですか、26年度の県の当初予算編成に向けた影響等があれば伺ってもよろしいでしょうか。

(知事)

はい。昨年サマーレビューにも取り組んでいただいてですね、かなりいろいろ歳出の見直しも行ってきたわけですが、残念ながらまだ、来年度に向けてもですね、500億以上の歳入不足が生じているということで、資金手当債も一定程度発行しないとですね、予算編成ができない状況でございます。しっかりですね、まだこれで終わりというわけではなくて、不斷の歳出の見直しというのも行ないかなければいけないと思いますし、一方でですね、必要な投資ですね、県民の皆さん的安全安心とか、暮らしを向上させられるようなですね、必要な投資についてはですね、行ないかなければいけませんので、そういう点ではですね、国のいろんなですね、予算をですね、しっかり活用していくということが重要になってくるというふうに思っております。

国土強靭化はじめですね、国が打ち出してくるいろんな手当についてはですね、我々もしっかり取りに行くということで、私も自分のネットワークも最大限駆使してですね、汗もかいていきたいというふうに思っております。

あとやっぱいろいろ民間ですね、投資ありますとか、民間の知恵、ノウハウをですね、生かしていくということも今後大事になってくるというふうに思いますので、そういう面でもですね、いろいろアイディアを絞っていきたいというふうに思っております。

(幹事社2)

ありがとうございます。

関連してなんですかけれども昨年 2025 年にはですね、国の補助金等が見込みより少ないですとか、あるいは不交付になるなど、そういう事務的なところも散見されたんですけども、今年度、あるいは今年に入ってから、そういう国との交付金、あるいは国との調整に関して県の組織的な対応等について変化などあるんでしょうか。

(知事)

これは昨年の反省も踏まえてですね、今いろいろ研修も含めてしっかり対応しているというふうに思いますし、何よりやっぱり、しっかり国とのパイプをですね、さらに太くして正確に情報を得ていく、あるいは国とのですね、緊密な連携、情報交換をしていくということに尽くるんではないかと思いますので、そういう点では一時ですね、少し希薄になってた国との関係についてはですね、これをさらにパイプを強化していくないと、そのために私の持ってるネットワーク等もですね、最大限生かしていきたいというふうに思っております。

(幹事社1)

その他どうでしょうか。

(記者)

毎日新聞です。本年もよろしくお願ひします。

今日、年頭の挨拶でですね幹部向けの挨拶で高市首相とですね、先輩と後輩の関係ですね、ネットワークが続いていくと、そこは変わらないというようなお話をありました。今もですね、その国との関係を強化するために個人的なネットワークも活用したいと。具体的にですね、高市さん就任して、ないしは年明けでもいいんですけど、何かあの総理とのやりとりなどされたこと、もしあれば。

(知事)

まだね、年明けてからはございません。はい。

(記者)

今後、例えばそういう機会があったときに。

(知事)

総理も昨年はもう本当に忙しい日々送られてたんで、少し落ち着いた時期にです

ね、いろいろまた連絡等がですね、できればいいかなというふうに思ってますし、静岡県の場合はですね、私だけじゃなくて、平木副知事も長年、(高市総理の)総務大臣時代はですね、ずっと総理(高市総務大臣)の秘書官を務めてたという関係もありますんで、知事、副知事共にですね、総理との非常に大きなパイプがあるというふうに思いますので、こういうものをこれからもしっかり活用できればなというふうに思っております。

(幹事社1)

その他どうでしょうか。ありがとうございます。以上で記者会見をおわります。

(知事)

ありがとうございました。本年もよろしくお願ひします。